



エジプト大統領選挙 強権的選挙と国軍内の亀裂

早稲田大学招聘研究員 鈴木恵美

が、事実上の信任投票であったため、選挙に対する国民の関心は低く、投票率は四一％であった。

エルシーシ氏は、一九五四年生まれで現在六三歳。カイロの庶民街出身で、父親は職人の親方といわれる。士官学校卒業後は陸軍に所属し、軍諜報調査局長官を務めた。また信仰心が篤いことで知られる。

ムスリム同胞団出身のムルスィー大統領により、二〇一二年に国防大臣兼国軍総司令官に任命されたが、一年後の一三年六月に大規模な反政府デモが起こると、クーデターを執行してこれまでの民主化を白紙に戻した。一四年には大統領選挙で当選し、その後行われた議会選挙では、政権に翼賛的な議会が成立した。エルシーシ大統領は、エジプトがアラブ世界をリードしたナセルの時代を理想としているといわれ、国軍中心の国家体制を強化し、国民のナシヨナリズム感情を

あおることで支持を獲得してきた。一方、政府に批判的な勢力は容赦なく取り締まり、歴代大統領が躊躇してきた付加価値税の導入や補助金削減などの経済改革を断行した。これまでの大統領の中で、最も行動的かつ強権的な人物といえるだろう。

このような大統領に挑戦する人物はいらぬのか。立候補が取り沙汰された者は、次々と不出馬を表明した。最後まで立候補の意思が固かったのは三名で、人権活動家で弁護士ハーリド・アリー氏は、当局による妨害行為を受けた後、立候補を断念した。残り二名は空軍出身者で、ムバラク政権最後の首相を務めた元空軍司令官のアフマド・シャフィーク氏は、アブダビでなかば亡命生活を送っていたが、エジプト帰国直後に監禁され立候補を取り下げた。サーミー・アナーン元参謀総長は、事実上の退役状態にあっただが、現役軍人の立候補を禁じた規定に

三月末、エジプトで大統領選挙が実施され、現職のエルシーシ（スィー）氏が九七％の得票率で再選された。選挙は、現職と、知名度の低い国会議員ムーサー・ムスタファ氏との間で争われた

反したという理由で逮捕された。結局立候補者がいなくなってしまう、急遽議会の親エルシーシ会派から無名のムーサー氏が立候補し、選挙の実施にこぎつけた。

一連の候補者潰しで明らかになったの

は、国軍内部の権力闘争である。共和国体制成立以降、国軍は一枚岩であったことはなく、歴代大統領は自身が陸軍出身であっても、強大な陸軍を掌握するのに腐心してきた。国軍内の亀裂の実態については想像の域を出ないが、空軍出

身のムバラク大統領の辞任後に、空軍と陸軍の間で権力バランスの変化が生じていること、そして陸軍内部でも派閥抗争が起きていることは間違いないだろう。

では、エルシーシ氏の再選は、今後のエジプトの内政や外交にどのような影響を与えるのだろうか。現行の憲法は大統領の三選を禁じている。二〇二二年

の任期終了に向け、憲法を改正するため社会に対する統制がさらに強化される可能性がある。あるいは国軍内でポスト・エルシーシを視野に入れた動きが水面下で加速するだろう。

外交面では、これまでの政策が踏襲されると思われる。つまり、アラブ域内では基本的にサウジアラビアと足並みを揃えつつ、軍事的にはロシア、経済的には中国との関係を一層強化するだろう。トランプ政権はエジプトの人権弾圧を口実に軍事援助を一部停止したが、オバマ以来両国関係は「テロとの戦い」を軸に基本的に変化していない。この、やや微妙な二国間関係は今後も続くだろう。

現在、マクロ経済は回復傾向にあるが、エルシーシの経済改革は中間層以下の生活を直撃し、人々の不満は蓄積している。経済の低迷はテロ組織による政権打倒の口実にもなる。政権の安定は、ひとえに経済の回復如何にかかっている。●



エルシーシ大統領の再選を祝う支持者たち (ZUMA Press /アフロ)